

沖縄は日本なのか —〈平和〉を軸として考える—

2016年11月19日(土) 午後1時30分～5時
法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 405号室
入場無料、事前申し込み不要

<プログラム>

●世界平和アピール7人委員会について

小沼通二 (世界平和アピール七人委員会委員・事務局長)



【講演】

●沖縄戦の傷は今も一写真を見ながら

大石芳野 (写真家、世界平和アピール七人委員会委員)



●沖縄をイメージすることの難しさ

武者小路公秀 (国際政治、世界平和アピール七人委員会委員)



●異化する沖縄

高村 薫 (作家、世界平和アピール七人委員会委員)



●私たちの問題としての「沖縄問題」

杉田敦 (政治学、法政大学法学部教授)



●パネル討論と質疑

司会：小沼通二 (物理学、世界平和アピール七人委員会委員)

会場案内 法政大学 市ヶ谷キャンパス (東京都千代田区富士見 2-17-1)



JR線または地下鉄線で
市ヶ谷駅または飯田橋駅
下車徒歩10分

※飯田橋側の、一階に
セブンイレブンが入って
いる建物が**外濠校舎**です。

世界平和アピール七人委員会 <http://worldpeace7.jp>

世界平和アピール七人委員会は、下中弥三郎氏の呼びかけによって61年前の1955年（昭和30年）11月11日に発足して以来、一人一人が安心・安全な生活をおくれる世界をめざし、人道主義と平和主義に基づいて、国際紛争は武力によらず、平和的な話し合いで解決すべきだと考え、国内・国外に意見表明を続けてきた不偏不党の有志七人の会です。これまでに121本のアピールを発表し、設立の月にあたる毎年11月には国内の各地で講演会を開催してきました。ウェブサイトには委員が交代で執筆する「今月のことば」を掲載しています。

大石 芳野（おおいし よしの）

写真家。1943年東京生まれ。フリーランスとして40年余りドキュメンタリー写真を撮り続けている。日本大学客員教授。写真集に『夜と霧は今』、『沖縄に生きる』、『HIROSHIMA 半世紀の肖像』、『カンボジア 苦界転生』、『ベトナム 凜と』、『アフガニスタン 戦禍を生きぬく』、『ソボ破壊の果てに』、『子ども 戦世のなかで』、『<不発弾>と生きる～祈りを織るラオス』、『それでも笑みを』、『福島 FUKUSHIMA 土と生きる』、『戦争は終わっても終わらない』、『沖縄 若夏の記憶』他。受賞：土門拳賞、紫綬褒章、JCJ賞（日本ジャーナリスト会議）ほか。

武者小路 公秀（むしゃこうじ きんひで）

専門は国際政治学。1929年ベルギー生まれ。大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター特任教授。元国連大学プログラム担当副学長、前大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長、前大阪国際平和センター（ピース大阪）会長、前人間の安全保障学会会長。著書に、『人間安全保障序説：グローバル・ファシズムに抗して』（国際書院）、『転換期の国際政治』（岩波新書）、『日本の形：外交・内政・文明戦略』（編著：藤原書店）など。

高村 薫（たかむら かおる）

作家。1953年大阪市生まれ。ミステリー小説でデビューした後に純文学に転向し、随筆、社会時評も手がける。ミステリーの主な作品は『リヴィエラを撃て』（93年第49回日本推理作家協会賞）、『照柿』（94年）、『マークスの山』（93年第109回直木賞）、『レディ・ジョーカー』（97年毎日出版文化賞）。純文学の主な作品は『晴子情歌』（05年）、『新リア王』（06年第4回親鸞賞）、『太陽を曳く馬』（10年第61回読売文学賞）、『冷血』（12年）。ほかに雑文集『半眼訥訥』、『作家的時評集』、『閑人生生』、『続・閑人生生』など。

杉田 敦（すぎた あつし）

政治学者。専門は政治理論。1959年生。法政大学法学部教授。日本学術会議会員。日本政治学会元理事長。立憲デモクラシーの会呼びかけ人。主な著書に『権力論』、『境界線の政治学 増補版』、『政治的思考』、『両義性のポリテイク』など。共著に『憲法と民主主義の論じ方』（長谷部恭男氏と）、編著に『丸山眞男セレクション』など。

小沼 通二（こぬま みちじ）

専門は物理学（素粒子理論）。1931年東京生まれ。現在、神奈川歯科大学理事、慶應義塾大学名誉教授など。日本学術会議原子核特別委員会委員長、日本物理学会会長、アジア太平洋物理学会連合会長、ノーベル平和賞を受賞したパグウォッシュ会議の評議員などを務めた。ハンガリー科学アカデミー名誉会員、素粒子メダル功労賞。J. ロートブラットほか著『核兵器のない世界へ』を共同して監訳（かもがわ出版）、『エネルギーを考える』共著、『アジアの「核」と私たち』共著ほか。